

水稻・大豆 栽培情報 8月号

令和5年8月4日
JA みづま
久留米普及指導センター

【水稻】

1. 生育概況

- ・田植え以降、断続的な降雨により初期生育は軟弱徒長傾向で生育しましたが、7月中旬以降は晴天が続いていることで生育は回復傾向にあります。
- ・ほ場の状況をよく観察し、除草や施肥、病害虫防除等、適期作業に努めましょう。

2. 病害虫防除

- ・海外飛来性害虫のトビイロウンカ、セジロウンカの県内への飛来は7月3日と推定されています。圃場によりウンカ類の発生状況は異なりますが、ウンカの発生パターンと紋枯病の農薬散布適期（出穂の10～14日前）を踏まえると、8月16～20日頃が第1回目の防除時期の目安となります。
- ・カメムシ類の対策は、水稻の出穂14日前までに、畦畔の除草を実施し、カメムシの発生源をなくしましょう。出穂直前での除草では、雑草に生息していたカメムシを水稻へ追いやることになるので注意しましょう。

○夢一献、ヒノヒカリ、ヒヨクモチ

防除時期 (目安)	剤型	農薬名、希釈倍数・散布量
8/16 ～20	液剤	(ウンカ類) ・ <u>アプロードスタークルゾル 1,000倍</u> (紋枯病) ・ <u>モンセレンフロアブル 1,500倍</u>
	粉剤	(ウンカ類、紋枯病) アプロードモンカットスタークルF 粉剤DL 3～4kg/10a

※液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

※ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。

- ・病害虫発生状況については適宜更新されていますので、下記のサイトを活用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

【大豆】

1. 生育概況

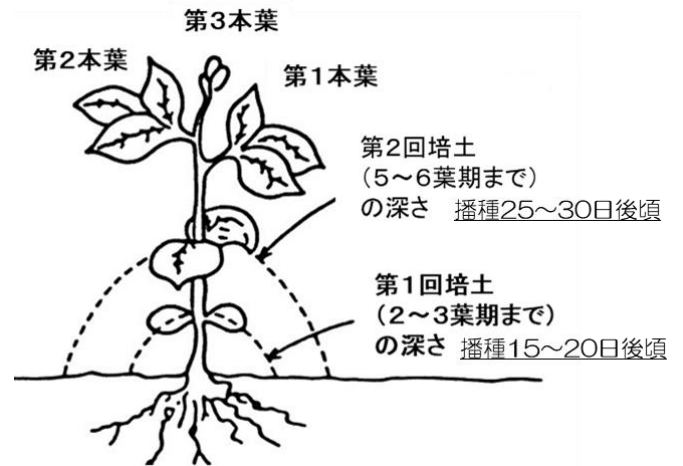
6月末からの断続的な降雨により、播種作業は7月16日からの開始となりました。7月下旬以降は晴天が続いており、月末までには概ね播種作業は終了しました。7月中旬播種分の出芽は全体的に良好です。中耕・培土の実施ならびに雑草が多発している圃場は草種に合わせて中期除草剤を散布しましょう。

2. 中耕・培土

雑草防除、耐倒伏性強化、土壌の通気性改善、排水性の向上、根の発達促進の効果があります。中耕・培土は、株元に土がしっかり寄るように実施しましょう。

※生育量が小さい場合は、5葉期頃の1回に減らす。

※開花期以降の培土は根を切断しやすく、生育抑制や落花につながるため、開花期前（平年8/20頃）までに終了する。



3. 雑草防除（農薬の使用量等は暦参照のこと）

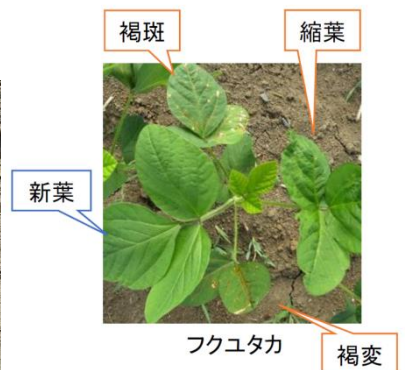
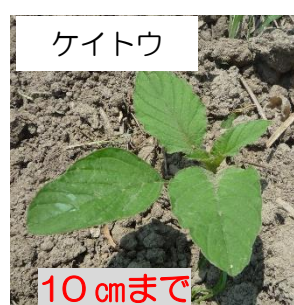
雑草が多いほ場は、中耕・培土と除草剤を組み合わせ対応します。

<広葉雑草が多いほ場>

農薬名	使用時期	10a 当たり使用量	注意事項
アタック ショット 乳剤	大豆本葉2葉期～開花前 （雑草生育期） ただし収穫45日前まで	30～50mℓ （希釈水量 100ℓ）	・ホオズキ、ケイトウ類に効果高い ※大豆の葉に薬害が生じますが、新たに展開する葉には影響なく、収量品質への影響は少ない
大豆バサ グラン液 剤	大豆2葉期～開花前 （雑草の生育初期～6葉期） ただし収穫45日前まで	100～150mℓ （希釈水量 100ℓ）	・タデ類、カヤツリグサ科に効果高い ※気温が高い日中の散布は大豆への薬害を助長する

※アサガオに対しては大豆バサグラン液剤かアタックショット乳剤が有効。

ホオズキに対してはアタックショット乳剤が有効。



（除草剤が有効である大きさの限度目安）

（アタックショット乳剤の薬害事例）

<イネ科雑草が多いほ場>

薬剤名	使用時期	10a 当たり使用量	備考
ポルト フロアブル	雑草生育期 （イネ科雑草 3～10 葉期） ただし収穫 30 日前まで	200～300mℓ （希釈水量 50～100ℓ）	・中耕・培土後に散布すると長期的に防除できる ※スズメカサネを除く

4. 病虫害防除

- ハスモンヨトウのふ化幼虫が群集している白変葉があれば早めに手取りで除去する。白変葉が目立ってきたら、下記の薬剤で一斉防除を行ってください。



ハスモンヨトウの幼虫



白変葉

防除時期	剤型	対象	農薬名	希釈倍数	希釈水量 (10a 当たり)
8月下旬 ～9月上旬	液剤	ハスモン ヨトウ	ノーモルト乳剤	2,000 倍	100～300 リットル
			ペガサス フロアブル	2,000～ 4,000 倍	100～300 リットル
	粉剤		トレボン粉剤 DL	4kg	-

5. 排水対策・過乾燥対策

○排水対策

- 大雨による停滞水は、大豆の根痛みや青立ち株発生の要因となるので、出来るだけ早くほ場外に排出するよう、畦溝や排水溝の整備を行いましょう。



○乾燥対策

- しばらく降雨がないと予想される場合は早めに本暗渠の栓を閉めておく。
(大雨が予想される場合は、事前に暗渠栓を開けるなど臨機応変に対応する。)
- 大豆は、開花始めから莢実の伸長肥大期までが、乾燥に最も弱い時期です。特にこの時期は注意し、必要に応じて畝間かん水を実施しましょう。
- 畝間かん水のタイミングは、晴天が7日位続き、畝間の土壌表面が白乾し始めた頃。かん水の量は、走らせる程度。夕方～夜間に行う。

- 農薬の使用量、使用時期は暦を参照してください
- 農薬のラベルに記載されている有効期限及び登録内容を確認して散布しましょう
- 農薬の隣接作物、宅地への飛散を防止しましょう